

第 I 部 平成28年熊本地震

【令和4年度分】平成28年熊本地震に関する北九州市の支援状況
(令和5年3月31日時点)

《人的な支援》

1. 職員の中長期派遣【危機管理室】 1名

九州地方知事会からの要請を受け、熊本県益城町へ災害復旧業務に従事する土木職員を派遣。(平成28年8月1日～令和5年3月31日)

- ・ 街路事業業務 (土木職)

令和4年4月1日～令和5年3月31日

平成28年熊本地震被災地への中長期派遣職員報告

[派遣分野、活動期間、所属名（補職名）、氏名]

(頁)

1 熊本県益城町（街路事業業務）

活動期間 平成4年4月1日～令和5年3月31日

補職名 危機管理室 危機管理課主査

氏名 吉谷 貴彦

益城町派遣を経験して4

派遣先	熊本県益城町 街路課 工務係
所属	危機管理室 危機管理課
氏名	吉谷 貴彦
活動期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

1 はじめに

本市からの益城町への派遣については、震災時から6年の月日が経とうとしており、2017年から本市より派遣されている佐藤氏が帰庁されることで、本市は撤退かと思っていたので、今回の派遣募集には正直驚きました。

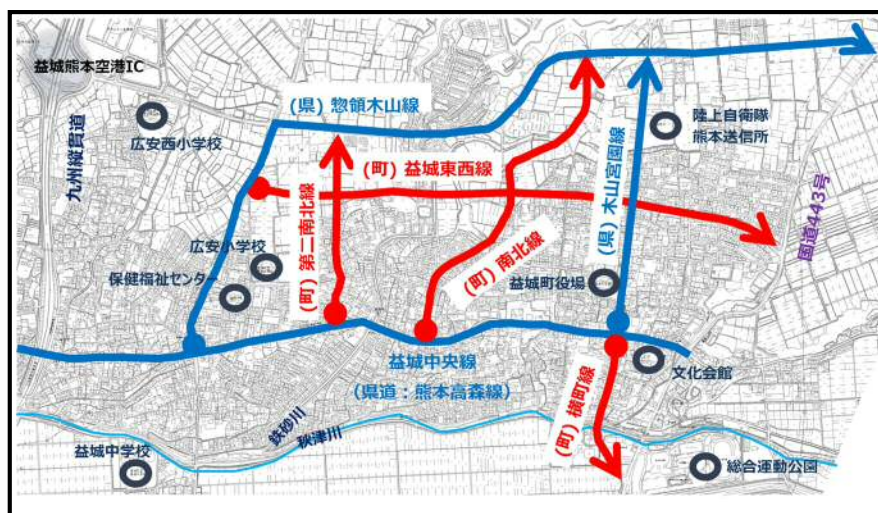
私は、益城町に2016年12月から2019年4月までの間、公園災害復旧事業の応援に行っていたため、本市への帰庁後も益城町の復旧・復興の進捗には関心を持っていました。今回は復興事業（街路事業）ということで、前回とはまた違う事業で少し不安もありましたが、益城町の役に立てればと思い、応募し派遣が決まりました。

益城町に行くと、職員の方々から「お帰りなさい」「二回もありがとう」と声をかけてもらい、温かく受け入れてもらって、気持ちが楽になりました。

今年度の派遣職員は、18名で未だに全国から来ておられました。3年前は50名程いましたが、さすがに復旧も終わり、復興の時期になっているので大幅に少なくなっていました。少し寂しい気もしますが、震災から6年も経つと、どこの自治体も職員を派遣するのが難しくなるのだと思いました。

2 現地での活動経過

派遣先は街路課工務係で、令和3年4月に復興整備課から分裂し、新たにできた課で、用地対策係、工務係の2係19名（町職員8名、任期付き職員3名、会計年度職員2名、派遣職員5名、コンサル1名）体制で事業を進めており、派遣職員は横浜市、和水町、



都市計画道路網図



南北線 着工前

鹿児島市、北九州市と全国からの派遣となっています。

事業内容としては、災害時にも機能を発揮する幹線道路（幅員12～14m）を建設するもので、事業認可、用地買収、工事等があり、都市計画道路の街路整備に特化したものです。

益城町の都市計画道路は横町線、南北線、第二南北線、益城東西線の4路線が計画されており、私が携わった路線は益城東西線、南北線、横町線でした。

益城東西線は、住宅地の中を通る路線で、既に発注された工事を引継いだものでした。関連工事の工程調整が上手くいかず、本体工事が遅れ地権者の方に大変ご迷惑をかけてしまい、謝る事が多い現場で苦労しました。

南北線は、畑の中に新たに道路を作る路線で、農地耕作者との調整程度で、問題なくスムーズに進み、一部供用を開始する事ができました。



南北線 竣工



横町線 施工中

横町線は、益城町の都市拠点、文化・レクリエーションの拠点となる木山地区を通る路線で、既存の道路を拡幅する現場でした。店舗の出入り、交通影響を考慮した施工、隣接工事や占有者工事との調整など課題の多い現場で、完成まで至らず、残念ながら繰越工事となってしまいました。このように、各路線異なる問題、対応があり、苦労もしましたがいろいろと経験ができ勉強にもなりました。

工務係での業務は、工事・委託の設計・積算、監督、用地交渉（技術的なもの）が主な内容で、本市の事業課と行うことはほとんど変わりません。もちろん積算、財務会計などのシステムの違いはありましたが、今までの派遣で経験があったので特に問題はありませんでした。

3 活動を通して印象に残ったこと

益城町では8時20分過ぎからラジオ体操が始まり、その後朝礼が始まります。朝礼は職員が順番で進行し、各係長が係内のスケジュール、職員の休暇を報告し、課長がスケジュールと一言、最後に課の共有事項がある方の伝達という流れで一日が始まります。朝から体を動かし声を出すと、今日も一日頑張ろうと気合いも入り、仕事への切り替えもうまくいきます。仕事終わりには、職員で職務室のごみを回収し、コロナ対策として、電話機や打ち合わせテーブルなど共有で使用する物のアルコール消毒をし、一日が終わります。基本、自分達で出来る庁内外での作業は何でもする感じでした。

以前から思っていました、面識のない職員の方でも庁舎内ですれ違う度に「お疲れ様です」と挨拶をする方が多く、気軽に声も掛けてくれて、人柄の良さを感じました。そのため、すんなり役場にも馴染め、何度も応援に行きたくなるのではないかと思います。

4 派遣での生活

一般的に派遣されるものとしては、知らない土地に行くわけで、住居、通勤、買い物など住居環境は派遣で一番重要なことだと思います。今回も、益城町のご厚意により、町内の宿舎を用意していただきました。通勤時間もさほどかからないし、家具家電が備え付けのアパートなので、一年間何不自由なく生活できました。本当にありがたいと思っています。

今回は、コロナ禍ということもあり、以前のような派遣職員や町職員との交流を深める機会が少ない中、唯一職員との交流を深めることができたのが、前回同様役場サッカー部の練習に参加させてもらった事でした。ストレス解消にもなるし、違う職場の職員とも仲良くなれるので、練習が楽しみでした。

一つだけ心残りだったのが、上益城郡自治体職員親善サッカー大会がコロナで中止となってしまったことでした。年に一度の大会で、唯一益城町役場として出場する大会だったので、非常に残念でした。



益城町サッカー部

5 最後に

益城町の復興計画で定めた計画期間は2022年度で再生期が終了し、2023年度より発展期に入ります。それを機に、本市も地震が起きた2016年度から応援し始めた派遣を終了することとなりました。まだまだ街路事業の完了までは時間もマンパワーもいります。私自身、工事が本格的に動き出している今、1年で帰ってしまう事が心残りで大変申し訳ないと感じています。派遣元と派遣先の考えや思いがうまく伝われば良い方向へ行っていたのかと思ったりもします。

復旧の一区切りになった新庁舎建設の完成、県道熊本高森線の4車線化の一部供用開始など益城町は復興に向けて確実に進んでいますが、まだまだ復興には時間が掛かります。約7年続いた益城町への派遣は終了し、お手伝いすることはできませんが、その進んでいく益城町の姿を北九州から見守り続けたいと思います。

最後に、今回の派遣に関係する皆様に心から感謝し、活動の報告とさせていただきます。



益城町役場新庁舎



県道熊本高森線の四車線化